

日本の農家生活より楽

張切る秋元(蒔田)さん一家

昨年夏ブラジル移住の希望がかない、一昨年渡伯した秋元(蒔田)さん一家(三軒町)の、マナカール地区に着いて約一年たつた当町出身の秋元(蒔田)さん一家が、張切る秋元(蒔田)さん一家(蒔田)に「真面目に働けば日本の農家生活より楽だ」と次のように元気なお便りがあつた。

(前略)こちらからただ電灯のないことや、郵便局の送つた荷物は全部無事につきました。郵便局は時差が、一回五元は、私達は将来に期待をかけた、一回五元は、大張切りの。当地に着いて既に二年、ここではブラジルの様子も大体わかつて参りました。三軒町の秋元(蒔田)さん一家は、私達の地区はバナナ、パイナップル、さとうきび、コーヒー、みかん等の産地で、二年、三年はもうして働けば果物の下敷になるくらい沢山です。その上、米や野菜もできますので、食生活も自由になつて参りました。



【写真一 出発五日前の秋元さん一家
左から二番目が佐太郎さん】

当地の気候は、暑さ寒さの差もあり、雨の降らない日は毎日働けます。雨の降らない日は毎日働けます。雨の降らない日は毎日働けます。

(保)(育)(雑)(感)

泥んこあそび



子供達の「どろんこ遊び」の時期に入りました。服はもうなんのでもかかなくて、泥んこになって帰つて来る子供は、はきかきして、泥んこを洗うのは、なかなか大変です。泥んこ遊びは、子供の心身の発達に、非常にいい影響を及ぼすので、親御さんには、ぜひ、泥んこ遊びをやらせてあげてください。泥んこ遊びは、子供の心身の発達に、非常にいい影響を及ぼすので、親御さんには、ぜひ、泥んこ遊びをやらせてあげてください。

鑑札の巻換え

八月一日から五日間

合併により自販車、荷車、リヤカー、バイクモーター等の鑑札二、日時の変更を、左記により実施する。八月一日、金木町、嘉瀬町、本町、喜良市本町、持主が忘れず換領するよう要望する。八月三日、蒔田、神原、長富、正正部、東西若見町、四日、藤枝、中柏木、五日、川倉。

団長に花田氏決る

連合青年団総会で

金木、蒔田、沢部、神原、藤枝の六単位団からなる旧金木連合青年団では、去る五日八時より同保育所において定例総会を開き、三十九年度決算報告及び新団長、副団長を選定する。新団長に花田氏、副団長に松江氏を選定した。

産業教室



金木地区における水稲の生育は、六月に入つてからの天候回復によつて、根付きも早く、苗の不良時期の生育から見ても大部立直しを示しているが、田植の早いところと遅いところ(特に六月十五日以降に田植したところ)により生育が異なる、従つてよいところも、悪いところもある。決して楽観はできない。本県における水稲の作況は七月、八月の順調な生育推移によつて、きまるところが多いのであるから、現在の生育状況では予測困難であり、これに加えて、七月の低温や、八月の早冷などが予想されているので、油断することなく、今後の肥培管理に当つては特に安全栽培に努力を傾注するよう求められた。

普及員に相談し、稲を見せしめ、後行つて、④幹線、支線の水路のゴミ上げ、水路側の雑草、灌木を除いて水温の上昇並に水害の軽減につとめること。⑤畦畔の補強をはかるため畦畔の修理、鼠穴、ケラ穴をふさぐこと。⑥遅れて田植した稲に対する、(一)水稲対する管理

① 昨年の種子が残存しているから種抜きは除草の都度、ていねいに行い、なるべく止草までに完了するようにつとめること。② 水口の青立を防ぐため、水量の調節、水口変更、水路の迂回等の工夫をすること。③ 追肥や種肥は原則として与えないこと、但し肥料不足の傾向ありと思われる農家は、あらかじめ

① 温暖の日ほどためて浅水にして分けつを促すこと。② 追肥や種肥は一切施さないこと。③ 病害虫の発生に留意し、速かに防除すること。④ 病害虫の防除

A 本年の天候からみて金木地方には、すい分病害虫の発生が多い。特に害虫の発生には、驚くほど多

つて水銀剤を使用する場合は発生をみてからでよいが、銅剤は発生時に散布する必要がある。また冷害の年のように急激に蔓延する場合は銅剤は防除が切れない。しかも病害は、適期防除を必要とするので、短時間に散布出来て、殺菌力の強い水銀剤が最も有利である。

② 小粒菌核病 今後の天候で菌核病も発生するおそれがある。防除時期は七月中旬頃。使用薬剤はセレン石、石炭反当三十四散布すること。

●米の事前買渡申込制とは? ●政府は今年の食糧の配給やその他の事情を考慮して必要な数量を市町村の指定集荷業者(農協または業者)に示します。●皆さんは登録している業者(農協または業者)に取渡の前

●米の事前買渡申込制とは? ●政府は今年の食糧の配給やその他の事情を考慮して必要な数量を市町村の指定集荷業者(農協または業者)に示します。●皆さんは登録している業者(農協または業者)に取渡の前

●米の事前買渡申込制とは? ●政府は今年の食糧の配給やその他の事情を考慮して必要な数量を市町村の指定集荷業者(農協または業者)に示します。●皆さんは登録している業者(農協または業者)に取渡の前

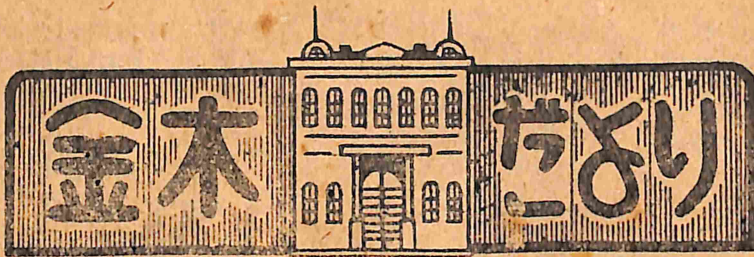
農家の皆さん御存じですか

●今年米の供出方法が変更されました。それは事前買渡申込制です。●(この制度は自由販売の制度ではありません) ●米の値段 石一〇、一六〇円 ●米の事前買渡申込制とは? ●政府は今年の食糧の配給やその他の事情を考慮して必要な数量を市町村の指定集荷業者(農協または業者)に示します。●皆さんは登録している業者(農協または業者)に取渡の前

金木春秋

若いころは、金木春秋の発行が、金木町の発展に、大きな役割を果たした。金木春秋の発行が、金木町の発展に、大きな役割を果たした。金木春秋の発行が、金木町の発展に、大きな役割を果たした。

29号 附録



発行所 金木町 印刷所 東奥日報社 印刷局 金木だよりは各世帯毎に一部ずつ無料配布しております。

所得の増大を図り 町勢の発展を期す

町勢の発展を期す

第一回定例町議会は、去る六月二十九日から七月一日までの三日間にわたつて、本年度予算案など七件の議案を審議した結果、全案件は原案通り可決になつたが、第一日目の二十九日には各常任委員会に附託審議させ、予算審議の本会議は、三日目の七月一日にする」ということになり、六月末日までの暫定予算だつた関係で、町当局では七月一日から十日分の暫定予算を準備するなど、大忙しだつた。以下参考までに「町長の挨拶」並びに「予算についての提案理由の説明要旨」を述べてみよう。

町長挨拶と提案理由説明

本日ここに、第一回定例町議会の招集するにあたり、議員各位は御多忙中のご多教御出席賜ひ、誠に御礼申し上げます。去る五月六日に町議会が開かれて以来、約五十日ぶりの会合であり、

町議会で提案を説明する町長



まして、合併後の本町の行政規模が急激に進展し、その区域も東西三里、南北二里有余に亘る広範囲に展開し、人口一万余千におよぶ自治体でありまして、その産業別構造も複雑化して、日夜その生産業態に精励されている町民の姿に

町税滞納整理に重点

事業施行は財源確定後

予算編成の経過及び方針

さて本日提案すべき諸議案の理由の説明に先立ち、合併による新町建設の鍵でありますところの『昭和三十年度予算編成について』その経過と方針を簡単に申し上げます。

せまい国土に住む貧しいわれわれ国民が、終戦後この方、平和を希

憧れ、議員各位とともに心からお喜び申上げるとともに、本日最も重要な予算案を通じ、町政発展のため、各位と親しく提案事項につき、審議し得ますことは、本職の深々、喜びとするところであります。本席より謝意を表する次第であります。(中略)

私が町長に再度当選して、その職に就任してから早くも三ヶ月は過ぎ、その間、新町将来の発展の構想をねつておりましたが、合併後日浅い関係上、新町実態の基礎的資料に乏しく、また財政規模は頓に増大しながらも、その効果は健全な様態におかれていることはひとり我が町ばかりでなく、他地方にも散見されるところであり、未だ過渡期における自治体の姿であると思ひますが、やがては町の

安定感も増大することであると確信する次第であります。こういう意味から、先般十六日から三日間県当局の御配慮をいただきまして、我が町の財政診断を県下町村にさきかけて実施願ひ、その実態の分析による効果を基本といたしまして、予算の編成に着手しました。

これが編成の方針につきましては後刻詳細に御説明申し上げますが、現今の地方財政は自主財源乏しく、その大半は国家財源に依存しており、従つて町村は自主的な施策も消極的な感も深いのであります。近き将来に政府においては地方財政の再建を準備するものと期待しているのであります。(中略)

助を約束つけられて『建設計画』をたてたものの、現在のところ、その実現は全く見通しのつかないものとなり、わが新金木町の第一歩をふみ出す、この三十年度は、合併前にましての『苦しい年』になるのではないかと予想致しております。

本年度当町の予算の編成は、かかる状態におかれている現況のもとに、しかも町税の滞納が約三千万円にものぼつていて、現在、四、五、六月の暫定予算さえも御破算

昭和30年度青森県北津軽郡
金木町歳入歳出予算総計表

入	本年度予算額	出	本年度予算額
税	35,250,136円	1、	1,755,000円
入	16,979,000	2、	19,977,600
税	650	3、	4,457,342
入	868,425	4、	1,642,000
入	9,025,000	5、	20,942,250
入	4,331,499	6、	13,665,400
入	860,000	7、	625,880
入	0	8、	6,724,670
入	3,977,000	9、	760,570
入	13,680,000	10、	266,050
入	84,972,010円	11、	542,740
出		12、	4,147,786
出		13、	998,951
出		14、	2,648,835
出		15、	8,624,723
出			240,000
出			600,000円

にし、重点指向の予算を編成せざるを得なくなつたのであります。従つて『予算編成の方針は』

- 一、町税滞納を徹底的に整理するため、歳入の滞納繰越を七六〇計上し、現年度分は八〇〇におさえた。
- 二、依存財源の地方交付税、補助起債等は、昨年度実績の八〇〇程度見込んだのであります。

歳出では
一、合併による自然増の人員費及び各種団体の負担金は金額計上した。

二、事業費では、いずれも起債、補助が確立しなければ執行できない状況であるが、一応可能性的のあるのみ計上した。従つて『新町五カ年建設計画』は

御破算とし、後日再検討願うこととする。

- 三、産業振興に関しては、水田単作地帯である当町ではあるが、将来有望である『りんご』と『畜産の振興及び、商工業進展』のための実現策に重点を置いた。
- 四、青少年育成のための『教育費』については、満足するようない

前述の方針に基いて予算を編成いたしましたものの、実際面では予算総額の八割までが経費で占められ、合併の初年度である本年は、町税の滞納整理が順調に進

予算総額 八千四百九十七万二千元
合併前より苦しい初年度

まなければ、むしろ合併前よりは苦しい年となるのではないかと存じております。

また総額八千四百九十七万二千円という多額になつていますが、

歳 出

事業費のほとんどが依存財源であるということをご承知願ひ、まず歳出面から予算内容の説明を申し上げます。

▲議会費 議会費総額百七十五万五千円となつており、その内訳は議員報酬の百十五万八千円、研修費として五万五千円、旅費の二十六万、需用費二千四百八千円、諸費負担金の三万三千円となつており、計百七十五万五千円の予算であります。

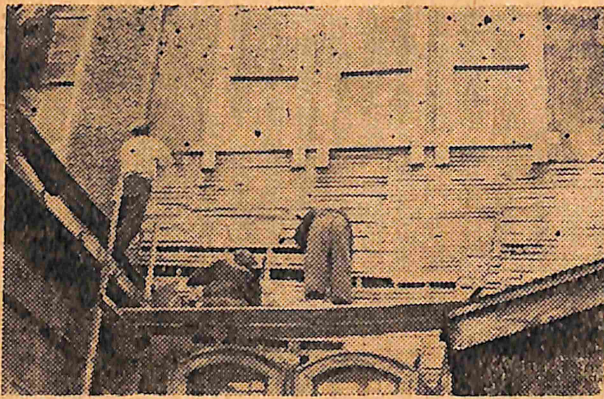
▲役場費 総額一千九百九十七万七千円、一応大きな予算となつておりますが、そのうち約八割の一千五百七十八万五千円は人員費であります。

▲消防費 総額四百四十五万七千三百四十二円で、この主なるものは、職員給の十五万九千六百円、同手当三万七千二百四十円、諸手当の四十五万五千円、旅費では二万円、各種負担金および自動車検査料等の二十二万二千九百二円の計上であり、この中喜良市ポンプ自動車の二百三十三万円

ですが、特別職の俸給については、その陣容が整備されていらない関係から今のところ一応旧金木町三役の俸給額を計上いたしました。

諸費十万円は研修費その他報償費の増改築のための計上で、喜良市両支所費は人員費を除いたいわゆる支所維持費の計上であります。

▲土木費 総括的に申し上げますと今回三方町村合併により県道延長約三万二千軒、一方町道は実に七万三千軒以上におよぶ交通量を有することになつたのであります。従来まで道路の補修並に橋梁復旧については、道路愛護運動と相俟つて、各町村とも町村費支出によつて辛うじて維持して来たのであります。最近急激に発達した自

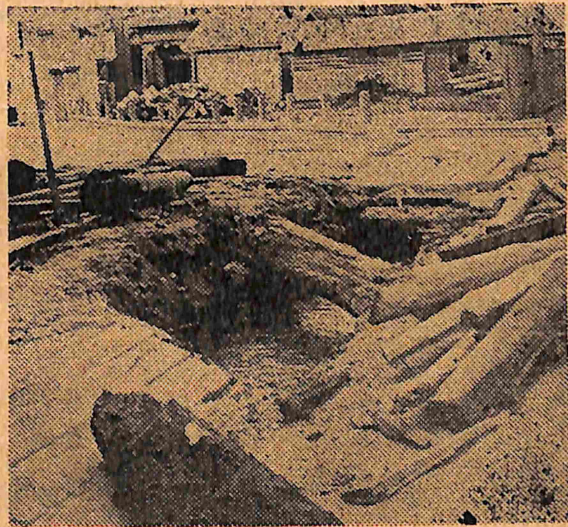


【写 眞】台風十五号でホロの出た役場庫舎

動モーター等の交通量の増大と、輸送物資の重量増により、道路橋梁の破損腐朽は特に著しさを加え、これが補修復旧は県道の復旧と同様、町村の最近における困窮財政により、まことに遺憾ながら町民の期待に副うような補修復旧は困難な事情にある次第であります。然しながら私から申上げるまでもなく、道路橋梁は産業文化のパロメーターと申すべく次第でありまして、前から申上げました道路の延長に対し甚だしい予算であります。また、交通量あるいは破損程度

度等を考慮いたしまして町民の便益に資したいと存じております。すなわち道路補修、橋梁復旧費として六十万円を計上、また街灯費についても道路の補修同様、幾分なりとも町を明るく保ちたいという考えから、現在までの街灯の維持はもちろんであります。が、長富部落の点灯、また町内合併当時極力要領されました夏貝市の双葉町の未点灯を補修すべく、部落民の協力を願って新設することにしたのであります。また多年の懸案であり、日つ現在着工中の金木川改修伊道費に三十三万円、さらに小川上流のダム建設の調査費として、三万円を計上した次第であります。

▲教育費 教育費については年々今少し増額して内容を充実したいと、絶えず考慮に入れて参りましたもの。金木小学校、喜良市中学校、金木中学校の焼失による甚大な町費支出とさらに嘉瀬中学校、晴



【写 眞】交通量が激しいので年2回位はこんなになる

田小学校の新築等いわゆる外形整備に急であつたため、次代の金木町、次代の日本を背負つて立つ青少年育成のため、内容充実までには程遠い状態にありますが、前述致しましたとおり苦しい財政で如何とも致し方ない状況にありまします。今後冗費の節減に留意するとともに、町税の滞納整理の見通しがつき次第、さらに増額計上することも考慮致しております。関係上、当初予算では金木中学校の屋内体操場建築費一千二百十五万円を併せ社会教育の推進を考慮し、総額二千九十四万八千円を計上したのであります。

▲社会労働施設費 この予算額は一千三百六十六万五千四百円であつて総予算額の一割六分を占めており、社会福祉、消防関係、保育所、公営住宅新築費等、寒にわれわれ町民としては数年来よりこの完璧を希望しているところでありまします。しかしながら本年度もつてこの完全を期することは、財政上困難なる状況にあるため、逐次施行する予定のものに編成致した次第であります。順次以下項目毎に御説明申し上げます。民生委員

費その他需要費として十万円、福祉保護費としては十四万四千円ですが、行事費として七万五千円、法外保護費として六万円計上し、授護関係を十分生かしたいと考えている次第であります。また本年は県の勧告に基づいて保育所運営委員を新たに項として設けると共に、委員には年額一人当り一千八百円の手当を計上いたし、保育所の経常経費から分離させ、補助申請の対象を明瞭にいたしました。次に營繕費中の保育所新築の件で、

○善調案件及び結果

一、金木町火入取締条例制定の件 (原案通り可決)

二、金木町粉食品加工施設事業利用料条例制定の件 (原案通り可決)

三、金木町報酬及び費用弁償に関する条例中一部追加の件 (原案通り可決)

四、金木町ほか三方町村学校組合金木高等学校改築工事充当借入金負担の件 (原案通り可決)

五、専決処分報告の件

六、昭和三千年度金木町歳入歳出予算の件 (原案通り可決)

(二十九日に開かれる各議会議任委員会に附託、七月一日本会議で審議する)

第二日 (六月三十日)

一、議会議任委員会毎に本年度予算について関係事項を審議、原案通り可決することを申合せた

第三日 (七月一日)

一、昭和三千年度金木町歳入歳出予算の件 (原案通り可決)

つて庶民の住宅難を漸次解消したいと存する次第であります。本支出に対しては裏付けをいたしまして国庫補助金三百一十八万三千円、起債百四十万円、計四百六十八万三千円が歳入面に計上されております。次の公営住宅費、修繕費の一万円は、喜良市公営住宅の井戸修理費を見ただのであります。公園費三十万円の中、施設費として二十六万五千円は決して多額とは申されませんが、年次計画により適当な施設をいたしたいと考えています。

次の金木町および金木町第一保育所費であります。これは各位で存じごとく児童一人当り月額約一千円の国から示された補助限度範囲内で計上いたしましたものであります。財政逼迫の折柄設

①は近く落成の詩田小学校



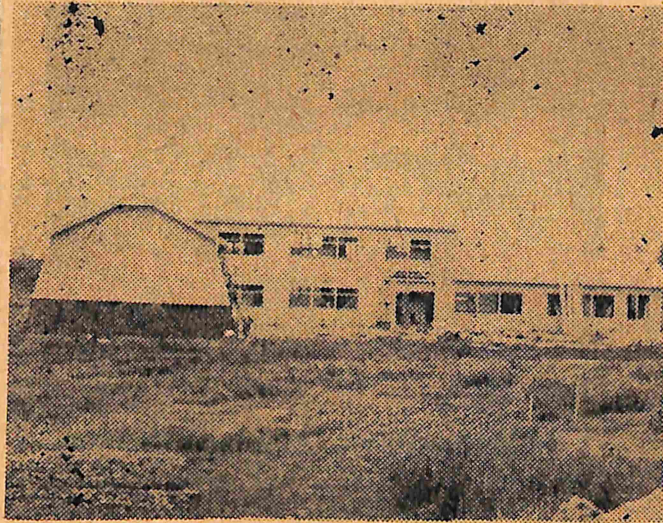
備費もほとんど計上でき得ない状況にありますが、経常経費のみにとどめました。

▲保健衛生費 総額として六十二万五千八百八十円でありまして、伝染病予防費は三十八万五千五百八十円で、内訳は手当として六万七千円、需用費その他三十二万四千八百八十円であります。主なる事業としては各伝染病の予防注射等はもちろんのこと、目下のごころ蚊、ハエ等の防除として各町内のドブ堰等の清掃を実施する計画であり、さらに喜瀬、喜良市にも同様施行する積りでありまして、結核予防費は十一万四千四百円でありまして、これは予防医手当と

主として薬品の計上であります。この該当人員は約四千人を見込んであります。火葬場費予算額の十一万四千三百円のうち修繕費としては金木火葬場の八万五千八百円と、喜良市分の五千円でありまして、これは前年も予算計上して修理する予定でありましたが、実現出来なかつたもので、今年はずいぶん修繕したいと考えております。将来は旧三方町村分とも火葬場は移転改築の止むなき状況にあるので暫定措置として修理する次第であります。また墓地管理手当は喜良

市分を計上しました。

▲産業経済費 産業の振興につきましては、機会ある毎に申上げ、今さら改めて述べるまでもありませんが、町といたしましてはできる限り、この振興対策に力を致さなければならぬことは当然中の当然で、農業立町を基盤とする以上、あらゆる角度から検討し、財政の許す限りの施策を考究樹立し、一意邁進の覚悟です。産業経済費としての総額は六百七十二万四千六百七十円の予算計上を見ただのであります。三地区農業委員



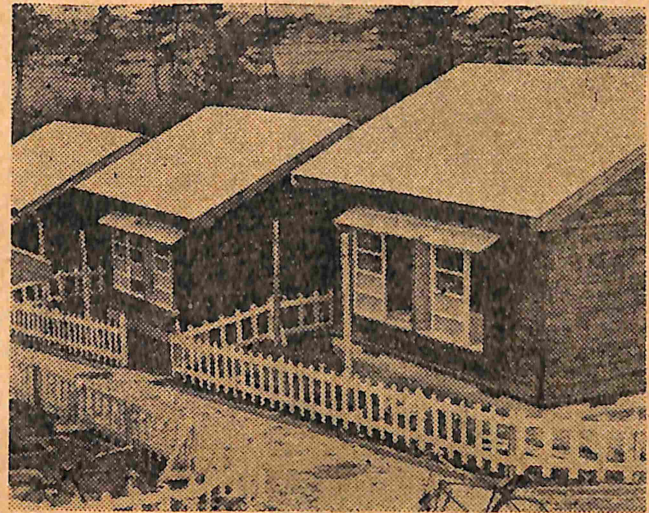
会費につきましては事業面としてほぼほとんどなく、事務的な経常経費のみの計上を見ただわけですが、そのうち商工振興、農業振興助成の予算についてその内容にふれてみたいと存じます。商工業の当面の問題は資金融通、特に低利資金の簡易な入手であると思っております。従いまして市中銀行より融資はもちろんであります。ここに見逃すことのないのは国民金融公庫の存在であり、低利にして容易な資金の融通は、この協会の利用を高めることにあると思っております。依つて昨年度の出資に続き、本年さらに十万円を当協会に出資し、当町商工業者の資金融通の便益を与えようとするものであります。

また反面において融資を受けようとする商工業関係者に対し、事業の企画性と申しますか、また経営の合理化といましようか、私も角も借入金に対する償還計画を樹立させ、償還に手違いを生じないよう、そしていつでも国民金融公庫から手軽に融資が出来るようにするため、業者自らの手による償還組合創設を図るよう十万円の創設費を乏しい財源より計上した次第であります。次に農業振興対策についての予算であります。各種総合開発費に五万円を計上しました。これは町村合併により従来旧町村で計画して参りましたものを基本として、有機的な総合計画に充当する考えであり、また町村合併記念の、第一回農産物品評会展示会の開催、水稲、馬鈴薯等多収穫競技会、小家畜普及奨励費十五万円計上いたしました。ただここぞ遺憾なことは、病虫害防除費に対し国並びに県の補助が打切られましたので、防除薬品に對し現在のところ多額の支出が出来ませんので、農家の皆様の病虫害防除に對し、器具機械面で防除班の組織的部署別を編成し、活発な活動を促進して側面から援助を期したいと思ひ、今年はじめにこのころみとして、部落別に試験田を設け誘蛾灯を設備し、今年の試験の結果によつては、明年より継続して全地域にこの施設を設置したいと存じます。

その内訳を申し上げますと、昭和二十八年度分金木農協七百一十一万六千円、川倉農協百七十三万円、嘉瀬農協九百七十七万円、喜良市農協五百三十四万五千円、昭和二十九年分金木第一農協三百九十万円、川倉農協百六十五万円、嘉瀬農協六百五十五万円、喜良市農協三百万円、総額で三千九百万円を突破する金額であります。利子補給金は全額国、県費の補助で、そのまゝ歳入に計上されており、町は単に歳入、歳出の予算措置を講ずるのに止まるのであります。元金の償還に当っては農家、単協とも慎重を期さなければならぬものと存じ、各位の十分の御関心と御協力を望んで止まない次第であります。

▲財産費

財産費総額七十六万五千七百七十円、うち基本財産造成費三十二万八千円、この内訳では、ラジオ青森出資金の十五万円、それに電々公社公債費として十六万六千円を計上してあります。これは公債の購入によつて構内交換機を設置しこれに電話機を接続して局の加入者および構内相互の通話が自由に行える設備費であります。この交換機は容量の小さな壁掛型の交換機ですから、交換室を設ける必要がなく、装置が至つて簡単ですから、操作が容易で、しかも交換取扱者の資格認定を必要といたしま



【写 眞】今年もこんな住宅が二〇戸建つ

せん。これには十五個までの電話機を取りつけることが出来るようになつており、電話利用度の激増している現在を考慮し、設置予算を計上いたしました次第であります。

次の部分林設定費について申し上げますが、今回町村合併による基本財産の造成費として、国有林の一部解放により部分林の設定を見ることがとなり、このたび旧金木町は八町三反余畝、旧喜良市村は四町五反の認可があり、旧嘉瀬村に対しては近く認可があることと期

待しております。

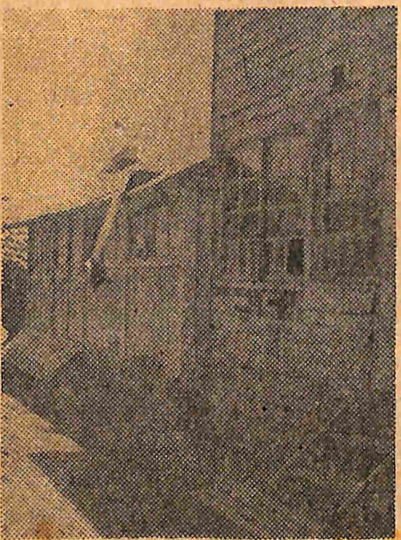
これは現地の引渡と相俟つて関係部市民に維持管理せしめ、その収益の分相率を定め、今秋植林を実施し、町将来の基本財産の育成を期する次第で、次回町会にはこれが条例設定を提案する所存です。部分林に対する国、県費の補助々成があることと思ひますが、今回は杉、松等の苗木代一本単価三百五十銭、反当三〇〇本、植林面積八町五反半分を計上、その他これに伴う調査費並に旧金木町におい

て紀五二六〇〇年記念事業として設定した部分林の入手費を計上した次第であります。なお国、県費の補助の有無が決定した際は、関係部市民の話し合の上、予算措置は改めて考慮する所存であります。財産管理費の四十二万二千五百七十円の計上は、町有建物に対する保険料の三十五万円、その他で七万二千五百七十円を見込んだのであります。次の積立金の二万円は職員退職積立金の計上でありま

▲統計調査費 二十六万六千五百円の内容を申し上げますと、農林統計費、商工統計費、国勢調査費、事業所調査費、毎月人口調査費の十

万四千円、県部統計協会負担金並に需用費八万七千円、町発行三十年版町勢要覧四百部四万四円、合併後の町地図一千枚三万五千円

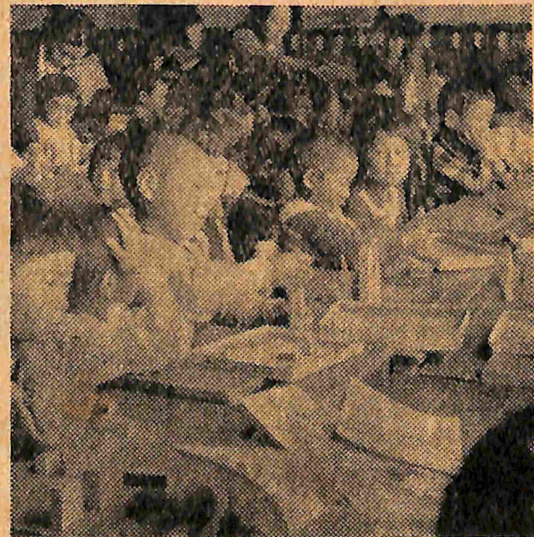
【写 眞】粗悪な資材で建てたため、危険な第二保育所



の計上であり、特に町勢要覧の編纂は新金木町の姿を広く他に紹介宣伝の意味合から、ここに計上いたしたような次第であります。

▲選挙費
去る四月行われました町長選挙、同月行われました県議会議員選挙、それに明年二月行われる町議会議員選挙、同じく教育委員の選挙費用でありまして、総額において五十四万二千七百四十円で、この中県議選挙費に対しては、全額県費補助と相成つております。

▲公債費 公債費総額四百四十七万七千八百八十六円であるが、この中本年度の元金償還額は九十九万八千九百五十一円、利子二百六十四万八千八百三十五円、それに一時借入金利子五千万円の子算を計上しました。



【写 眞】今春開設した季節保育所(嘉瀬小学校にて)